

長泉麗峰山の会・	文・写真 北村
山行番. 個人山行	
日時 2023年11月3日(金) 快晴	
山域 八ヶ岳連峰・阿弥陀岳(2804m)～中岳(2700m)～赤岳(2899m)	
コース 美濃戸口登山口(5:11) - 御小屋山(6:44) - 阿弥陀岳(8:45) - 中岳(9:38) - 赤岳(10:20) - 赤岳展望荘(10:57) - 赤岳(昼食)(11:44) - 地蔵の頭(12:57) - 行者小屋(13:31) - 赤岳鉱泉(13:58) - 美濃戸登山口(15:22) - 美濃戸口登山口(15:53)	
標高差 上・下り=約1800m(累積)	
難易度 非常に困難 困難 <b>やや困難</b> 普通 やや易しい 易しい	
<b>季節外れの暖かさ 阿弥陀岳～赤岳 周回</b>	
参加者 北村=1名	

この日は完璧だった。何が？ 11月の三連休初日、ケチのつけようがない天気予報。実際の天気も予報通り、晩秋とは思えない暖かさ、風弱く陽射したっぷり、見晴らし抜群、八ヶ岳最高峰の赤岳山頂も上着無しでゆっくりできる完璧な登山日和だった。

山行は八ヶ岳でまだ行った事のなかった阿弥陀岳に上り、中岳の稜線から赤岳に登頂、横岳側200m下の肩まで下りて、県界尾根から赤岳に上る計画とした。日没が早くなっているが、頑張れば明るい時刻に下山できるとみて日帰りで計画した。

美濃戸からのピストンを計画したが、G会長から折角なら周回を・・・とコースを提案頂き北沢から下山するルートに決定した。すべて初めて歩く道となり楽しみが倍増した。

登山開始 am4:50、夕暮れ前の16:30に下山するために、歩行を標準タイムより1割早く設定して紙地図の裏に分岐やピークの通過時刻を記載して進捗確認しながら歩いた。

朝は余裕をもって現地に到着したが誤算が・・・駐車場料金を支払う八ヶ岳山荘の開店が6:00。早々にコース短縮が頭をよぎったが、5時前に食事の仕度で出てきた小屋番さんに声をかけたら5時に開店してくれた。

この日一番の駐車券購入、支払っている間に後に人が並んでいた。

車に戻り駐車券をダッシュボードの見える所に置き、安心して登山を開始。計画より25分遅れのスタートになった。



AM4:58 夜明け前の八ヶ岳山荘

山荘には登山出発準備の人が何人も居たが、皆さん赤岳鉾泉ルートなのか歩き始めても前後に登山者の姿は見え、灯りは自分のヘッドライトのみ。煌々と輝くオリオン座を眺めながら、熊の気配にも注意を払いながら、静まり返った暗い道を歩き始めた。

最初のピークとなる御小屋山(2137m)までは約600m標高を上げる。有名な御柱祭りの木を運ぶ道だけに歩き易く快調に進んだが、御小屋山手前で分岐を間違えてタイムロスをしてしまった(最終ページ軌跡参照)。地図に書かれてない分岐なのに、直感で歩きやすい道に進んでしまった。疑問を感じて立ち止って確認すべきと反省した。

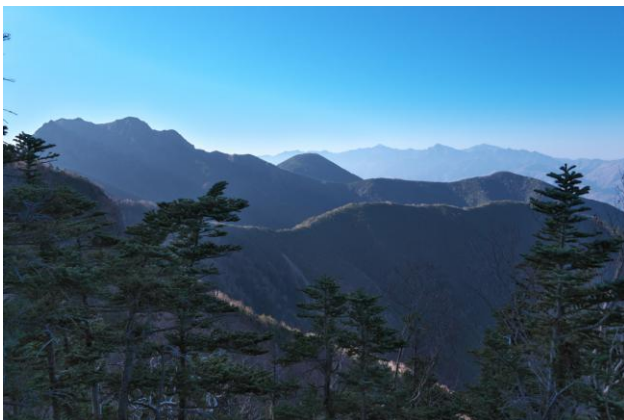


御小屋山

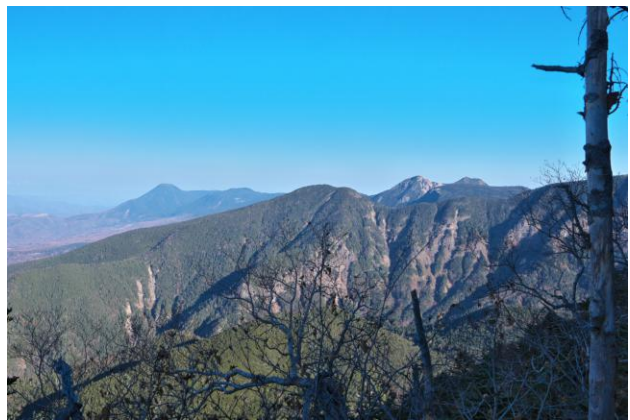
御小屋山に到着。小さな誤算はあったが10分遅れとまずまずのペース、立ち休憩で水分補給した。その先の平坦地を過ぎると長い急登が始まる。地図の等高線から分かっていたが、想像以上に急できつい坂だった。しばらくすると視界が開けて権現や南アルプス、蓼科山、天狗岳が見えてきた。眺望が開けても急登は変わらなかったはずだが、快晴の空と良い景色にのきつい感覚が打ち消されたようで、のぼっていた記憶はほとんど無い(笑)



御小屋山の先から続く急坂



権現岳、編笠山 後方に南アルプス



蓼科山、天狗岳

阿弥陀岳までの上りではいつもと違う感覚が一つあった。晴れているのに、日の出時刻を過ぎても、いつまで経っても木漏れ日も太陽も見えてこなかった。

ふと歩いてきた道を振り返ったとき、阿弥陀岳の影の中をずっと歩いていたことに気づいた。遠景は霞んでいたが、眼下のカラマツの紅葉が見事だった。

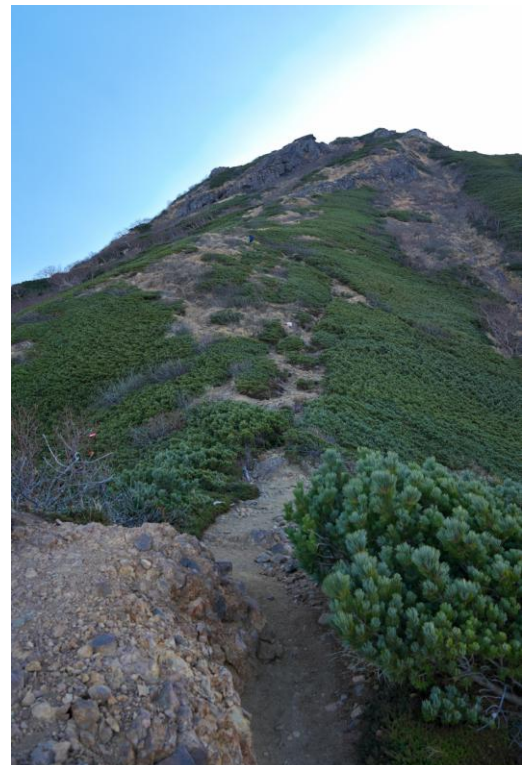


上ってきた道を振り返って 阿弥陀岳の影がくっきり

日陰の森林限界から稜線に出た。なんて眩しい太陽の光。新しい朝が来た♪ ラジオ体操をしたい気分(笑) 影がうるさいと感じながら北八ヶ岳方面にカメラを構えると自分の影くっきり。良いアクセントが入った写真が撮れた。



自分の影くっきり(画面左下)



森林限界に出た。山頂は近い！

阿弥陀岳に登頂した。見渡せば 360° 青空、真っ先に目についたのは霞の先に鎮座する富士山。小さく見えても、その存在感は抜群だ。山頂には、4~5 パーティが入れ替わりで休憩していた。ハーネスを付けた山岳部の学生パーティにスナップ写真を撮ってもらった。どこから上ったか聞いたところ北稜といていた。阿弥陀岳はルートが豊富と知った。素晴らしい景色に魅せられ予定より 15 分ほど長居してしまった。

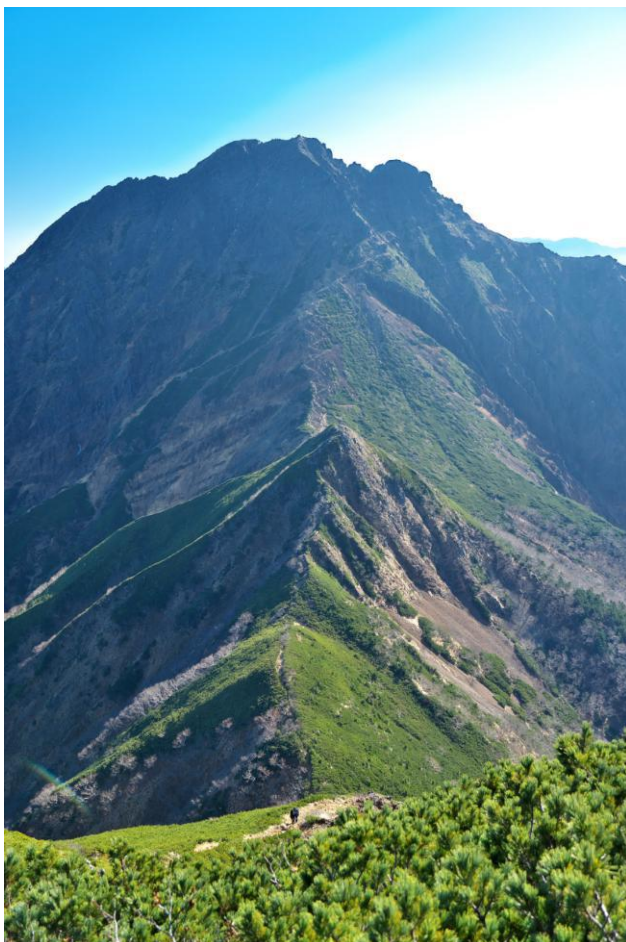
赤岳に向かう稜線はカッコ良くて見た瞬間からワクワクが止まらなかった。山頂で軽く行動食を摂り先に進んだ。阿弥陀岳の下りはガレた急斜面、石を落とさないよう、距離をとって慎重に下った。岩場通過の良い練習になった。



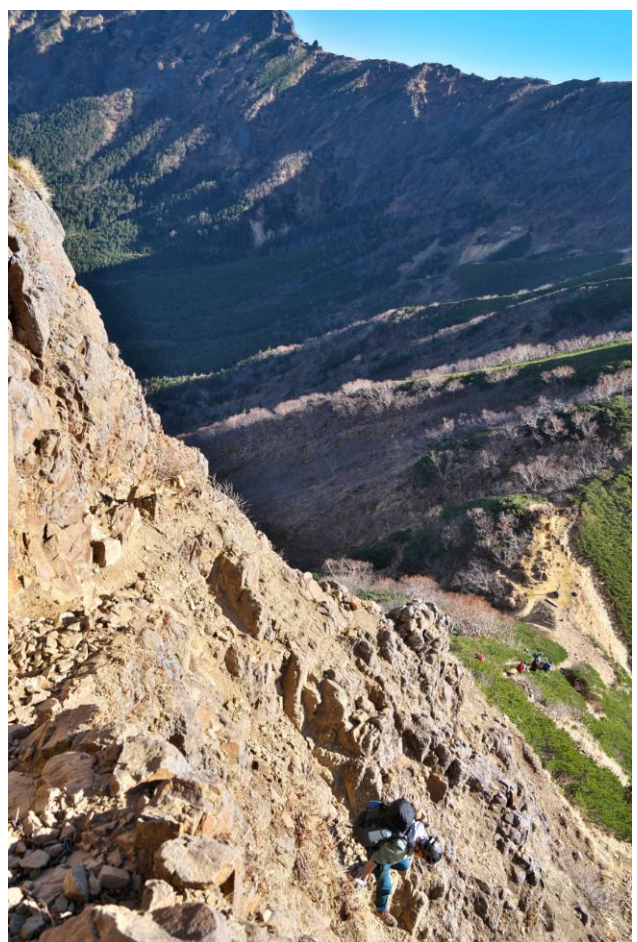
圧倒的な存在感 富士山



阿弥陀岳山頂 嬉しいスナップ



素敵！赤岳への稜線



阿弥陀岳くだりの急斜面

阿弥陀岳から赤岳までは、山頂で挨拶した若いソロ登山者と雑談しながら歩いた。この日は青年小屋テント泊との事で大きなザックを背負っていた。同じ美濃戸からテン泊装備で上がってきて権現岳まで縦走する体力に関心。エネルギッシュな姿にパワーをもらった。

今年の夏、数日違いで荒川～赤石の同じコースを縦走していたとの事で話が盛り上がった。中岳下からの地味にきつい道、山頂下の鎖場も、景色と会話を楽しみながらあっという間に赤岳に到着した。朝は霞んでいた遠景が少しづつくっきりし始めて、雪を抱いた御嶽山、乗鞍、北アルプスも見ることができた。



中岳下の分岐から阿弥陀岳を振り返る 遠くに御嶽、乗鞍、北アが見える



赤岳への地味にきつい上り



赤岳山頂下の岩場

10:20 赤岳に到着。登山者は思ったほど多くなく、寛ぐ登山者で適度に賑わっていた。夏場は順番待ちとなる標識前も人はまばら。居合わせた女性の登山者と写真を撮り合った。

標識と横顔とまん中に富士山入れてほしいと贅沢な希望を言ったら、慎重に構図を決めてくれてイメージ通りのナイスショット嬉しい一枚となった。続いて、この方のカメラを預かり自分もベストと思う構図で数枚撮影。うまく撮れたかなあ〜？

山頂はポカポカだったが、日陰の一部には雪があった。この日の予定も残り一つ。県界尾根の下見をするため赤岳展望荘に向かった。

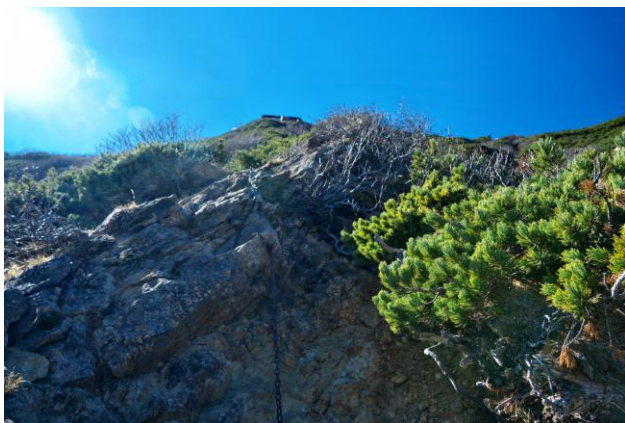


赤岳山頂 嬉しいスナップ



赤岳展望荘下から県界尾根へ

横岳側に下りる登山道は一部すれ違い待ちの賑わいだったが、県界尾根への道は誰も居なくて、都会の裏通りのようだった。短い距離だが、鎖とハシゴの道を体験して再び赤岳に上った。途中、3人ほど下山する登山者とすれ違った。偶々かもしれないが、皆で歩かれた感じの単独登山者だった。「山頂付近は雪がついてるから気をつけて」と教えてくれた。



県界尾根



再び赤岳に くつろぐ登山者達

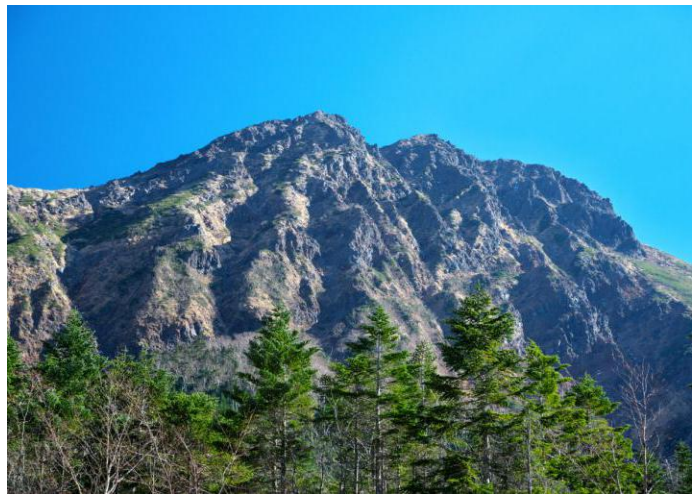
再び赤岳に到着、あとは下山のみとなり、山頂前の広い場所でゆっくり昼食を摂った。お湯を沸かして熱い味噌汁に梅おにぎり、ゆで卵、食後はコーヒーとおやつ、旨かったあ。

下山は上り返しほとんど無く快調に歩いた。行者小屋から見える赤岳が迫力あった。赤岳鉱泉を過ぎて沢筋の登山道に入る。最近、まとまった雨は降っていないと思ったが、川の水量は多く一部の登山道は水が流れて小川との区別が不明瞭になっていた。朝のルートミスの失敗を生かし、立ち止まって先の地形を良く見る。どの場所も数十秒の確認で正規ルートが判断できた。この習慣をしっかりと身につけていきたい。

沢を抜けた後の、落ち葉と西日で輝くカラマツの道は絵画のように綺麗だった。計画通り明るい時刻に下山。八ヶ岳山荘で駐車場利用者サービスのホットコーヒーをゆっくり頂いて充実した一日を終えた。山荘で購入した信州産のリンゴも美味しかった。



落ち葉と紅葉カラマツ



行者小屋からの赤岳



下山後、八ヶ岳山荘でリンゴを購入  
(6個で500円)

### 登山ルート概要(歩行の軌跡)

